【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成18年4月13日(2006.4.13)

【公表番号】特表2002-505365(P2002-505365A)
【公表日】平成14年2月19日(2002.2.19)
【出願番号】特願2000-534608(P2000-534608)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｌ　77/00　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　25/18　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　67/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｌ　77/00
Ｃ０８Ｌ　25/18
Ｃ０８Ｌ　67/00

【手続補正書】
【提出日】平成18年2月23日(2006.2.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　（ａ）少なくとも２８０℃の融点を有するポリアミド２０～６０重量％、
（ｂ）２３０℃より低い融点を有し、かつポリエステル、コポリエステルおよびポリアミドよりなる群から選択される熱可塑性ポリマー１～２０重量％、
（ｃ）３００℃で１０分間加熱したとき、高々２００ｐｐｍの無機塩素、および高々３５０ｐｐｍの無機臭素を発生するハロゲン含有有機化合物５～３０重量％、
（ｄ）（ｃ）の難燃活性を支持する化合物０～１５重量％、
（ｅ）無機強化材５～５０重量％、および
（ｆ）他の添加剤０～２０重量％
を含み、（ａ）～（ｆ）の合計が１００重量％であるポリアミド組成物。
【請求項２】　高融点ポリアミド（ａ）が、脂肪族、脂環式または芳香族ジアミンおよび脂肪族、脂環式または芳香族ジカルボン酸から誘導される主鎖中の繰り返し単位で構成される、あるいはラクタムの開環によって得られる、あるいはそれらの組み合わせによって得られるポリアミドよりなる群から選択されることを特徴とする、請求項１記載のポリアミド組成物。
【請求項３】　高融点ポリアミド（ａ）が、脂肪族ホモポリアミド、脂肪族－脂環式コポリアミドおよび脂肪族－芳香族コポリアミドよりなる群から選択されることを特徴とする、請求項２記載のポリアミド組成物。
【請求項４】　高融点ポリアミドの融点が２８０～３２０℃であることを特徴とする、請求項１～３のいずれか１項記載のポリアミド組成物。
【請求項５】　ポリマー（ｂ）が、粒子の少なくとも９０％が３μｍより小さい平均断面を有する粒子サイズでポリアミド（ａ）中に分散していることを特徴とする、請求項１～４のいずれか１項記載のポリアミド組成物。
【請求項６】　ポリマー（ｂ）が脂肪族ポリアミドであり、その鎖中の脂肪族Ｃ原子：アミド基の数の比が少なくとも６であることを特徴とする、請求項５記載のポリアミド組成物。
【請求項７】　化合物（ｃ）がハロゲン含有ポリマーよりなる群から選択されることを特

徴とする、請求項１～６のいずれか１項記載のポリアミド組成物。
【請求項８】　ハロゲン含有化合物（ｃ）が、臭素含有スチレンポリマーであることを特徴とする、請求項７記載のポリアミド組成物。
【請求項９】　化合物（ｄ）が無機化合物よりなる群から選択されることを特徴とする、請求項１～８のいずれか１項記載のポリアミド組成物。
【請求項１０】　化合物（ｄ）が酸化アンチモンまたはアンチモン酸ナトリウムであることを特徴とする、請求項９記載のポリアミド組成物。
【請求項１１】　酸イミド基を含む少なくとも１個の化合物が（ｆ）として存在することを特徴とする、請求項１～１０のいずれか１項記載のポリアミド組成物。
【請求項１２】　酸イミド基を含む化合物がスチレンマレイミドコポリマーであることを特徴とする、請求項１１記載のポリアミド組成物。
【請求項１３】　組成物が、
２３～５５重量％の（ａ）、
２～１５重量％の（ｂ）、
８～２５重量％の（ｃ）、
２～１２重量％の（ｄ）、
１０～４５重量％の（ｅ）、および
０～１０重量％の（ｆ）
を含み、（ａ）～（ｆ）の合計が１００重量％であることを特徴とする、請求項１記載のポリアミド組成物。
【請求項１４】　電気または電子部品を製造するための請求項１～１３のいずれか１項記載の組成物の使用方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
【課題を解決するための手段】
この目的は、
（ａ）少なくとも約２８０℃の融点を有するポリアミド２０～６０重量％、
（ｂ）２３０℃より低い融点を有し、かつポリエステル、コポリエステルおよびポリアミドよりなる群から選択される熱可塑性ポリマー１～２０重量％、
（ｃ）３００℃で１０分間加熱したとき、高々２００ｐｐｍ、好ましくは高々５０ｐｐｍの無機塩素、および高々３５０ｐｐｍ、好ましくは高々３００ｐｐｍの無機臭素を発生するハロゲン含有有機化合物５～３０重量％、
（ｄ）（ｃ）の難燃活性を支持する化合物０～１５重量％、
（ｅ）無機強化材５～５０重量％、および
（ｆ）他の添加剤０～２０重量％
を含み、（ａ）～（ｆ）の合計が１００重量％である組成物により達成される。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
　かかる化合物の例は、スチレンマレイミドコポリマー、ポリエーテルイミドおよびイミド化されたポリアクリレートである。好ましくはスチレンマレイミドコポリマー（ＳＭＩ）である。これは市販されており、例えば、スチレンマレイン酸コポリマー（ＳＭＡ）のイミド化により製造されるDenka　SMI（商標）（DenkiKagaku Kogyo K.K.）が挙げられる

。